

地域を元気に
女性を元気に

全国「リビング新聞編集長」の 2014年“読者が、地域が動いた！”企画

仙台から鹿児島まで全国 56 エリアに広がる「リビング新聞」には、地元のミセスたちが元気にしたいと、日夜さまざまな企画やイベントを生み出している編集長がいます。その豊富な経験の中には、リアルな生活者を動かすヒントが満載。総勢 30 名の編集長たちに、2014 年「読者が、地域が動いた！」と実感した成功事例を教えてくださいました。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台

藤崎由紀子

編集長



**もりもりハートの飾りが完成
まつりは参加してこそ！**

仙人こそ足を運ばないという「仙台七夕まつり」。理由の一つは、市民が参加する場が少ないこと。そこで2013年から読者と一緒に七夕飾りを作るプロジェクトを始めました。2014年のテーマは「LOVE」。読者に「折り紙でハートを折って」とお願いしたところ、届いたハートは予想をはるかに上回る9000個以上。完成品は、もりもりハートのかわいらしい姿になりました。ボランティアで飾りを組み立ててくれた読者からは「大変だけど楽し〜」との声。やっぱりまつりは参加してこそ！

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング福島 郡山

鈴木朱美

編集部長兼編集長



**県内11店舗でレシピを共有
「夢noパン」は爆発的な売れ行き！**

創刊 30 周年を記念して、「夢 no パン」を作るプロジェクトを発足させました。子どもの部 180 通、大人の部 92 通の応募があり、見た目や味、話題性を考慮し、子どもの部は「生クリームバナナメロンパン」、大人の部は郡山のご当地パンをアレンジした「あんクリームボックス」が第1回グランプリに。レシピを共有し、福島県パン協同組合加盟の県内 11 店舗で同時発売したところ、当日から売り切れ続出の爆発的人気商品に。予想以上の反響に、第2回開催を求める声も！

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングとちぎ

和田美紀

編集長



**手作りマルシェ&ママさんフリマで
集客UPをサポート！**

県内最大規模の住宅イベント「とちぎ住宅フェア2014」（2日間）の会場の一角で、タイアップ企画「リビング手作りマルシェ&ママさんフリマ」を実施。当日はリビング読者やお店による手作り品販売や体験講座等のブース、リビングカルチャー倶楽部講師による多彩なショッポ、また、子ども服やおもちゃなどを並べたブースが出店。多くの家族連れで終日賑わいました。フェア入場者は昨年より大幅増加！「リビングさんの動員力はすごいね」とフェア主催者にも集客効果を実感して頂け、高評価につながりました。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ

依田由利子

東葛本部 編集長



**夏休みにホテルで「一日宿題村」
小学生の親子 173 組が集結**

夏休みの宿題を涼しいホテルで済ませちゃおうと企画した「夏休み一日宿題村」。3年目の今回は 10 講座に抽選で選ばれた 173 組の小学生親子が参加しました。定員の約 2 倍の応募があった「解決！読者感想文」「野菜から DNA を抽出」などお勉強系の講座では、子どもたちは真剣そのもの。スイーツキャンドル、羊毛フェルトなど工作系の講座でも、集中して取り組む我が子の姿にママたちは目をみはっていました。講座の後はマナー講座付きのホテルランチも！親子で楽しい思い出をつくりました。

Tokyo

サンケイリビング新聞社 リビング東京副都心
東京西 東京南 東京東 東京リビング

和田直子

東京本部 編集長



**「TOKYOおもてなしフェスタ2014」
その朝、駅には着物姿の行列が！**

8/3、東京都江東区のホテル イースト 21 東京で「TOKYO おもてなしフェスタ2014」を開催。茶道裏千家淡交会青年部と、いけばな草月流師範の全面協力のもと、「おもてなし」をテーマにした和文化的祭典が繰り広げられました。当日はテーマごとに趣向をこらした、9つの茶席やいけばなワークショップを中心に、多彩なステージやブースが展開。浴衣や夏着物の老若男女約 2500 人が来場しました。2020 年に向けて、和文化に対する興味と関心の高まりを実感しました。

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの

石川香里

武蔵野本部 編集長



**ミセスの悩みや課題をいち早くキャッチ
「お・や・か・た」で素早くアクション！**

話題となっている「親の家」問題。『親の家を片付ける』を発行する主婦の友社の協力を得て、書籍に登場する生活研究家を講師に「親の家を片付けるセミナー」を開催しました。会場は、介護付き有料老人ホーム。30 人の定員が配布当日にオーバーしたため、50 席に増席して対応。主婦や家族全体の悩み・課題をいち早くキャッチし、アクションを起こせるのが当社の強みです。通称「お・や・か・た」はミセスだけでなく、家族の問題に対応したコンテンツとしてヒットしました。

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま

佐藤順子

埼玉本部 編集長



**女性の「働く」がテーマ、埼玉版
ウーマノミクスイベントに2万人**

埼玉版ウーマノミクスプロジェクトの一環として埼玉県と地元企業による実行委員会が主催の「スマイルウーマンフェスタ」。2回目の今回は、女性の「働く」をテーマに商品やサービス・ステージを展開。「働く楽しみ」「踏み出す勇気」を提供しました。ちょっと固いテーマにも関わらず、そのうち働きたいママからすぐにでも働きたい主婦まで 2 万人以上が来場。「笑顔あふれるよいイベント」「女性目線のブースに好感」「自分を活かせるヒントがいっぱい」など、来場者の満足度も高かったです。

Funabashi Narashino

サンケイリビング新聞社
リビングふなばし・ならしの

島田文美子

千葉本部 副編集長



**洗練された百貨店での新企画
“ジモト愛”がキーワード**

流行先取りの百貨店で行われたのは、地元密着の初催事。地域がつながり、もっと元気になればと、西武船橋店「京成沿線 美味しい博覧会」は 9 月に実施されました。リビング新聞スタッフも奮闘し、魅力的な店をリサーチ、取材。農家やショップにスポットを当て、期間中は若手梨農家と人気スイーツ店がコラボ。多彩な「梨スイーツ」が販売され、話題になりました。「ふなっしー」パワーでも「ジモト愛」が強まる中、地元の深掘りが女性たちをひきつけたのです。

Chiba

サンケイリビング新聞社
リビング千葉

大石登子

千葉本部 編集長



**その企画、得か？損か？
見極めが正しく早い！わが読者**

世に無料イベントが乱立する夏。「親子ホテルマン体験」1 組 5000 円は 50 組の定員が、即満席（喜）。テーブルセッティングやナフキン織り、ベッドメイキングなど、短時間で体験充実の熱意に満ちた企画でした。年末の「和食料理長セミナー“お正月料理とニッポンの心”」1 人 5500 円も 25 人定員に 70 人超え。こちらも料理長の知識と経験を惜みず披露する渾身企画。そう、読者は紙面から熱意を感じ取ってくれる。納得の企画にはお金を出してくれるのです！

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩

石河久美

多摩本部 編集長



**「リビング多摩Web」PV好調！
原動力は情報感度の高い地元ミセス**

「みんなが知りたいと思う地域情報をいち早く取り上げる」を心掛けて作っている「リビング多摩 Web」のページビュー（PV）が好調です。特に情報感度の高い読者からなる地域特派員 14 人が発信中の特派員レポートは注目的。編集部も「さすが」と舌を巻く最旬地域情報満載で、中には月間 1 万 PV を超えるものも。そのほか「ワンコ連れで行ける店」や「多摩プロポーズ」などの人気コンテンツ執筆者も地元在住ミセス。リビング多摩（紙面）の読者が Web の高 PV を牽引しているのです。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜東 横浜南

今野直子

横浜本部 編集長



**スーパーで今どき800円の弁当に殺到
地元知るリビングがハブとなりコラボ**

2014 年春、消費税対策を！とのスーパーマーケットのオファーで、当本部がハブとなり、日頃リビング横浜・シティリビング横浜との取り組みに協力的な県、あんふあん神奈川版でも人気の料理研究家、デザイン賞多数受賞の地元デザイナーがコラボ。地産食材で美味しく、女心をつかむ包装に県知事の揮毫もついたオリジナル弁当が完成しました。知事と読者の試食会には、各社報道も駆けつけ情報拡散。2 週間 1 万個限定販売の企画は、売り切れ続出に反省（？）しきり。

DenenToshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市

林ひろ子

編集長



**紙面とセットにした
田園都市検定Web企画、バンザイ！**

田園都市で、都心や横浜にも負けない食品ジャンルのといえば「パン」。職人のこだわり感、出来上がりの質の高さは、どの地域にもひけをとらない。パン焼きが趣味だったという人も、何軒ものベーカリーが創作するパンの虜になり、これまでの趣味を棚に上げるほど。そんなエリア特性に焦点を絞って、2014 年終わりを飾る「地元検定」のテーマに選んだ。地域で話題の渦、「客数も増えている」とお店の声。リビング新聞を読んだ、Web にアクセスしてくれたミセスの動きは大きいほううれい。

Machida Sagami

サンケイリビング新聞社
リビングまちだ・さがみ

増渕直子

編集長



**「まほろ駅前狂騒曲」検定で
PV 5万! Webの活性化に**

瑛太・松田龍平主演の「まほろ駅前狂騒曲」。原作は町田育ちの直木賞作家・三浦しんさん、物語の舞台は町田、ロケも町田市内、市民もエキストラで出演と、町田づくし。そこで、リビングまちださがみ Web では「まほろ駅前狂騒曲検定」を実施。配給会社や、映画とタイアップしている J3 リーグの「FC 町田ゼルビア」から限定グッズを賞品に提供してもらい、より魅力ある企画にできたことで PV は 5 万に! 多くの人に「リビングまちださがみ Web」をアピールできました!

Nagoya

名古屋リビング新聞社 リビング名古屋中央
名古屋東山の手 名古屋みなみ新都心
名古屋イースト 名北がすかい・こまき

中島幸子

編集部長



**「ものづくり愛知」を親子で実感
“食”の工場見学バスツアー**

「食」問題があれこれ取り沙汰されるなか、春休みを利用して「親子でおいしい工場見学」というバスツアーを開催しました。通常、工場見学を行っていない地元の「食メーカー」を見学できるうえに、「おみやげ付き!」という特別感にあふれる内容が、食への関心が高いミセスのツボに刺さったのか、親子限定 15 組のところ 200 組近い応募が! 当日も熱心に質問する親子の姿がみられ、「ものづくり愛知」のパワーを実感する企画となりました。

Osaka/Hyogo

サンケイリビング新聞社
リビング大阪 兵庫

吉田三千代

大阪編集部長



**母&娘ととことん応援!
プレゼントには1万件以上の応募が**

2008 年に開始し、7 年目となった「Happy Mom's Day」キャンペーン。母の日をとことんお祝いしようという主旨で、リビング新聞を中心に、シティリビング、あんふあん、レイウエディングの 4 媒体合同で行っています。今回も 2 月中旬から 6 月末まで、紙面や Web を通して、さまざまな企画を実施しました。プレゼントの応募総数は 1 万 2643 件、初開催の川柳コンテストには 772 作品もエントリーが。母娘の絆がほんわか伝わってくる作品は、「母娘川柳」で Web 検索を。

Shonan

湘南リビング新聞社 リビング湘南
リビング平塚・大磯・二宮

川戸眞澄

編集長



**読者が考えて作り、選んでくれた!
湘南の物知りシラス「シラセさん」**

2014 年 9 月に創刊 30 周年を迎えた「リビング湘南」ではイメージキャラクターを公募したところ、想像以上にクオリティーの高い作品が 250 点も集まりました。そこで 5 つのキャラクターに絞って緊急総選挙をイベント会場での出張投票所とウェブ投票の二本立てで実施。最高得票を獲得して誕生したのが湘南名物「シラス」と「お知らせ」を掛け合わせた「シラセさん」です。読者のみなさんが考えて作り、選んでくれたキャラクターだからこそ、大切に育てていきたいと思っています。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀

山本和子

副編集長



**やっぱり気になるこれからのこと
初めての終活セミナーに応募多数**

進む高齢化社会、相続税のアップと、高齢者には何かと気になることが多い中、滋賀リビング新聞社では初めての「終活セミナー」を 9 月に開催。「エンディングメイク」を施す復元納棺師、弁護士、土地専門家の講義を聞き、それぞれのペースで個別相談を受けるという簡単な内容。3 回の募集記事が出た直後には、問い合わせの電話があつたり、定員 60 人に対して応募が約 100 人、さらに当日は案内状がないのに直接会場に来た人も数人あるなど、好評なイベントとなりました。

Wakayama

和歌山リビング新聞社
リビング和歌山

野田知世

編集部 副編集長



**リビング和歌山 35 周年の記念フェスタ
3万 5000 人の笑顔が集まる**

年に一度開催している恒例イベント「リビングフェスタ」ですが、今回はリビング和歌山が創刊 35 周年。記念事業としてイベント内容もリニューアルを図り、より幅広い読者の皆さんが集まり、楽しめる催しを目指して開催しました。巨大フリマゾーンを核に、手作りクラフト市やグルメ出店、ドッグパーク、そして子どもたちが喜ぶ「はたらくクルマ・プチお仕事体験」などを盛り込み、2 日間で約 3 万 5000 人が来場。たくさん笑顔に出会い、私たちスタッフも元気をもらいました。

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡

松永恵理

編集部 編集長



**忙しいミセスは“家飲み”!
ビール飲み比べセットに応募殺到**

家事や子育てに忙しいミセスは夫と違い、気軽に飲みに出かけることができません。そこで、7 月 19 日号でお酒の“家飲み”を特集。主要ビールメーカー 4 社に、イチオシの商品と“家飲み”の楽しみ方を教えてもらいました。さらに、紹介商品を“飲み比べセット”としてプレゼント。ハガキだけの応募にも関わらず 200 人(1 人 1 通) 近くの応募がありました。「夫や家族と飲みたい」「いろいろな味を楽しみたい」など、ミセスらしいコメントも多数。女性思いの特集だったと思います。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都

山舗恵子

編集長



**地元のキャッチフレーズを募集
1102 作品の応募がありました**

「京都のキャッチフレーズを考えて」。読者にそう呼びかけたところ、10 代から 90 代まで、女性を中心に 1102 作品の応募がありました。京都らしく観光客に向けて呼びかけたもの、地元の今の動きを表現したものなど、内容もバラエティー豊か。読者がいかに地元・京都を愛しているか、よくわかった企画です。最優秀作「世界が恋する京都」は京都市長賞として、市長からも紙面にコメントをいただきました。ほかにも「日々新しい京都で賞」「京都を感じま賞」など、14 作品が入選!

Himeji/Kakogawa

播磨リビング新聞社
リビング姫路 加古川

小林孝直

編集部長



**現役子育て主婦の視点が、
更なる「リアル」をプラス**

昨年、2 名の編集スタッフを中途採用しました。どちらも小さな保育園児のいるミセスです。育児と家事と仕事を上手こなすのはなかなか大変そうですが、2 名とも頑張ってくれています。特に、編集会議などでは、現役子育て主婦ならではの意見や疑問やアイデアが飛び出し、改めて「しっかりと地に足が付いた強さ」を実感。行政への取材などでも、ストレート&シビアな質問で、先方の担当者を時々焦らせています。2 名の存在は、近いうちに育てと読者を動かす大きな力になることでしょう!

Okayama/Kurashiki

岡山リビング新聞社
リビングおかやま くらしき

新山 錬

執行役員編集長



**親子で楽しむ科学&工作ショー
定員200人に応募総数876人!**

“わくわくさん、こと、くぼたまさとさんを講師に「親子で楽しむ夏休み科学&工作ショー」を開催しました。親子 200 人を無料招待するというイベントですが、応募が殺到。最終的に 286 組 876 人に上り、抽選となりました。一昨年暮れの「くぼたさんの工作ショー」が好評だったため、今回は地元大学科学ボランティア学生によるサイエンスショーもセット。どの家にもある身近な材料が楽しい遊び道具に変身する—という時代のニーズにマッチしたコンセプトがキモでした。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ

石川恭子

編集部長 編集長



**読者の声で新商品開発&料理教室も
「みんなの白みそプロジェクト」**

県外出身者には衝撃的らしい「白みそのあん餅雑煮」をはじめ、香川の白みそ文化を守るべく、また若い世代にもっと使ってもらえる白みそを開発したい。そんな思いのもと、「讃岐食品工業」が、リビング読者の意見をもとに新商品「サヌキ百年」を完成させました。さらに、その味を知ってもらえるよう、料理教室も実施したところ、定員 40 人に対し 100 人以上の応募が! 「実はお雑煮以外の使い方を知りたかった」という隠れたニーズに応えたところが、好評の理由だったようです。

Fukuoka

西日本リビング新聞社
リビング福岡

前田和美

編集長



**手づくり作家が大集合!
2 日間で 1 万人動員のフェア**

手づくりの“カワイイもの、が並ぶ「ナチュラル雑貨&ハンドメイドフェア」。約 200 のブース出展のほか、ワークショップ、キッズプレイランド、グルメコーナーなどを展開。参加費 500 円(紙面掲載クーポンで 400 円)の有料イベントですが、2013 年は 12 月 13、14 日の 2 日間で有料入場者数 10,073 人を達成。イベントが少なく、温かいものが恋しい冬の開催も動員ポイントかも。2014 年は「ハンドメイド&こだわり品フェア」として、より幅広いジャンルの作品を展開しました。

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま

岡田千恵

編集部 編集長



**読者の健康を願う気持ちを形に…
子宮頸がん検診に86人の申し込みが**

福山では、月イチ掲載「女性と健康」をはじめ、健康に役立つ内容をお届けしています。「がん検診」をテーマにしたアンケートなどから見えてきたのは「子育てで忙しくて時間が取れない」「男性の医師だと抵抗がある」などの理由で受診しない人が多い現状。そこで、福山市医師会、福山市の協力で受付・問診・診察すべて女性による「子宮頸がん検診(無料託児付き)」を企画したところ定員 30 人に対し 86 人の申し込みが! 受診率の向上につながり、関係各所も注目しています。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま

小原明美

取締役編集長



**少子化・子育て支援のカギは
シニアミセスが握ってる?**

「リビングまつやま」では、初孫が生まれるばあば・じいじを対象に「孫育てセミナー」を企画。掲載翌日から申し込みが入り、2 日目は定員 30 人を超過。急ぎよ定員を 2 倍にしたものの、それでもキャンセル待ちに。「孫との関わりで大切なのは?」「心得は?」「贈り物で気をつけることは?」「東京まで面倒を見に行く」など、フレッシュばあばにはアツイ意欲が見え隠れ。余っている自分の力を子世帯のために生かしたい。リビングミセスは少子化・子育て支援のカギも握っている?

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本

松田恵美子

編集部 編集長



**リビング熊本限定のディナーコース
約2カ月で480人以上が利用**

“食のカジュアル化”が進む中、たまには本格的なレストランに予約して出かけ、料理をコースで楽しむ…。そんな食文化を見直してほしいという想いで始めた「素敵にディナー推進プロジェクト」。地元の名店にお声掛けし特別なディナーコース(5000 円程度)を設定。特集で毎月 1 回紹介し、それぞれ 3 カ月間コースを提供。初回店舗は 2 カ月で約 300 人が、2 店舗目も約 1 カ月で 180 人以上の利用という高レスポンス。多少高価でもリビング限定という価値を理解してもらえた結果だと実感しました。

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま

高山由美子

副編集長



**読者の声に答えがある!
クチコミコーナーで情報拡散**

県民性としては、何でも楽しもうとする反面、目の前に壁があると、あっさりとする気がなくなる性質。例えば、カーブの調子がいいと熱狂的ですが、連敗が続くと冷めるのも早いといった具合です。こんな読者を相手にするので、「これで動く」なんて、都合のよい法則はありません。だからこそ、「教えてください」という傾聴の姿勢で、読者と一緒に紙面を作ることを大切にしています。クチコミ情報が大好きで、記事とクチコミをミックスした「しかけ」に、反響が高いですよ。

Kitakyushu

西日本リビング新聞社
リビング北九州

奥永智絵

編集長



**政令指定都市イチの高齢化都市で
シニア層ターゲットの企画を実施**

政令指定都市の中で最も高齢化が進んでいる北九州市。シニア女性がターゲットの編集企画、営業企画は展開してきましたが、初めて、シニア向けイベント「リビング en ジョيوفェスタ」を開催しました。シニア女性が活躍するテーマの映画上映(各定員 350 人、2 回実施)に加え、身近な法律、終活、食と健康をテーマにしたセミナー(各定員 50 人)を実施、企業による出展も 8 ブース設けました。セミナーは急ぎよ増席の回もあり来場者数 900 人。シニア向け情報への反響の大きさを感じました。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま

内村由美子

編集長



**「もう一度学校へ」のきっかけに!
子どもの不登校に悩む女性に大好評**

いじめや学校への不適応が原因で不登校となる生徒や高校中退者が増えています。そんな子どもを持つ女性をサポートできれば、と初開催したのが「通信制高校・サポート校フェア」。子育て講演会と通信制高校等の相談会を行ったところ、100 人以上が参加。「一人で悩まなくていいと勇気もらった」「新しい道への希望が見えた」など好評でした。日ごろ大勢の読者を対象にした楽しいイベントが多い中、時代のニーズを捉えたニッチな分野でのサポートも私たちの使命、と改めて実感しました。